

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」はくさん校			
○保護者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 12月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2024年 11月 18日		～	2024年 11月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 9日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽(楽器)が得意な職員がおり、お子さまのお楽しみの活動や手指機能向上課題においても指を使った活動と一緒に楽しくピアノを弾いたり、職員が引く曲に合わせて体を動かして遊んでいること。	お子さまが安心して楽しく過ごせるように、馴染みのある童謡などを引いて気持ちがリラックスできるように取り組んでいる。 また、音楽を通してお子さま同士の交流の機会を作り、コミュニケーションが自然とできるようにしている。	音楽を聴いて体を動かすリトミック活動も今後検討し、運筆などの手指機能向上課題だけではなく、粗大運動の活動も併せて行い、お子さまがより楽しく課題や活動に取り組み、お子さまの『可能性』を広げていく。
2	2階支援スペースに畳のお部屋があり、椅子に座って課題に取り組むことが苦手なお子さまには座布団を敷いて、お家で過ごすのと似ている環境下でとり組むことが出来る。	机上課題に取り組む際に、椅子に座ることで逆に集中できなくなってしまうお子さまがいることも考え、あえて椅子を使わずに座布団に座る形で取り組んでいる。また、座布団に座ることで、眠気や疲労感から姿勢が崩れても椅子から落ちることなく、ちょっとした休憩・アイスブレイクが挟みやすくなる。	畳の部屋ならではの活動を今後検討し、個別療育だけではなく小集団療育にも繋げていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	悪天候の際には2階へ続く階段の途中で雨水が滴っている箇所がある為、見た目的にもあまり良くなく、階段昇降の際に危険が伴うと考える。	建物自体が古く、老朽化によるものと考え。	建物自体の老朽化によるものが原因と考えられる為、修繕改修などの対応を今後検討していく。
2	2階が主な支援スペースとなり、お子さまの年齢や障害特性などから階段昇降が難しく、支援スペースまでの行き来がしにくい場合が考えられる。	1階の玄関前スペースでも支援が可能ではあるが、玄関とフロアの間で段差があり、お子さまが段差による落下もしくはケガの恐れがある為、2階で支援を提供せざるを得ない。	年齢や特性などから階段昇降がやや大変なお子さまには職員が必ず付き添い、階段昇降中の事故を未然に防ぐようになっている。また、1階のフロアスペースは幼児や多動のお子さまの支援はせず、基本学習支援がメインのお子さまのみで対応している。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」はくさん校				公表日	2025年 2月 15日		
						利用児童数	10	回収数	10
		チェック項目				ご意見	ご意見を踏まえた対応		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	1	0	0	2階は広く、ブラレール等のスペースが いる遊びも十分すぎる程のスペースかと 思います。	今後もお子さまに合わせてスペースの確 保を行い、安心した環境で過ごせるよう に配慮いたします。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	0	0	1	担当の先生がフィードバックしてくだ さっている間も他の先生が子どもについ てくださり、十分だと感じます。	コンプライアンスに則り、必要人員を今 後も継続して配置してまいります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7	2	0	1	ホワイトボードの配置や扉により、集中 しやすい環境になっていると思います。	お子さまの特性に合わせて支援場所をあえて変え なかったり、パーテーションを使って視覚的情報 を制限するなど、今後も行ってまいります。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	0	0	0	古い建物ですが、しっかりそうじをされ ていて綺麗にされていると思います。	感染症予防の点からも考え、今後も清掃 および消毒を継続して行ってまいりま す。	
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	10	0	0	0	息子のことをしっかりと理解いただい ている職員の方ばかりだと思います。	お子さまの特性だけではなく、性格や年 齢なども考慮し、今後もご対応させてい たきます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	10	0	0	0	相違ないと思います。	保護者様が安心してご利用いただけるよ うに相違のないように行ってまいりま す。	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	10	0	0	0	面談でしっかりとこちらのニーズを聞い てくださり作成されています。	保護者様のニーズをしっかりと聞き取 り、満足いただける支援計画を今後も作 成してまいります。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	10	0	0	0	具体的な支援内容をしっかりと設定して くださっています。	ガイドラインに則り、お子さまの支援に 限らず、ご家族の方も含めた支援計画を 今後も作成してまいります。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10	0	0	0	計画に沿ったものを毎回していただい ています。	支援計画に沿った内容の支援を行うと ともに、必要に応じて新しい活動も取り入 れております。	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います か。	9	0	0	1	毎回様々な活動をさせていただいていま す。	支援プログラムが固定化されてお子さま が飽きないように、事業所内で話し合う 機会を今後も作ってまいります。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	3	1	0	6	認定こども園に通っています。	通所いただいているお子さまの特性から 初めてのお子さまとの関わりが難しい 為、現状機会がありません。	
保護 者へ の説 明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につい て丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	0	しっかりと説明を受けています。	契約時に保護者様へ書面を見ていただき ながらご説明しており、今後も丁寧な対 応を心掛けてまいります。	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	0	0	0	しっかりと個別に説明を受けました。	支援計画を都度保護者様へお見せすることはない ですが、お子さまが取り組んだ課題や活動内容は フィードバックで保護者様へ詳しくお伝えしてい ます。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています か。	9	0	0	1	入口の掲示物で提供していただしていま す。	ペアレントトレーニングは現在行えてお りませんが、今後検討してまいります。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	10	0	0	0	毎回フィードバックの時間がしっかりあ るので、こちらも伝えやすいです。	保護者様とのフィードバックでお子さま のご様子などをお伝えし、共通理解・認 識できるように配慮しています。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8	1	0	1	専門的な助言をくださり、面談がとて も勉強になります。	専門的な視点からのアドバイスはできて おりませんが、各職員が経験や知識から 相談対応をしております。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10	0	0	0	否定的な対応はされたことがなく、共感 して下さる職員さんばかりです。	お子さまの自己肯定感が育まれていくよ うに、否定ではなく肯定する対応を今後 も意識して行ってまいります。	
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流 の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだ い向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けら れるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	1	5	そのようなイベントがある認識はないで す。	以前はママカフェなどのように保護者様 の集いの機会を提供していた為、今後検 討してまいります。		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9	0	0	1	何かあると面談やお時間をとってください、真摯に対応くださっています。	保護者様からの相談は迅速かつ丁寧に対応するように意識しております。今後も保護者様に寄り添った形の対応を心掛けてまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10	0	0	0	配慮いただいています。	お子さまや保護者様とのコミュニケーションにおいては、言葉だけで伝わりにくい場合には文字に起こしてご提示しております。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8	0	0	2	発信いただいています。	事業所の自己評価は毎年行ってHPにアップし、イベントなどの活動の様子は保護者様やお子さまにもご覧になっていただけるように掲示しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9	0	0	1	個人情報で気になることはありません。	鍵付きロッカーに厳重に保管しております。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	1	0	3	マニュアルについては存じません。	マニュアルは保護者様へ周知が徹底されておりましたが、各災害発生を想定した訓練を実施しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	1	0	2	避難場所等も周知されており、安心していきます。	毎月避難訓練を行い、火災、地震、水害などを想定し、避難場所までの避難ルートも確認する為の訓練を実施しています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8	0	0	2	今まで事故やケガがあったことがない為、分かりかねます。	現状お子さまに大きなケガや事故はありませんが、今後も十分ありうる可能性を考え、危険意識を持って対応してまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8	0	0	2	安心して通っています。	お子さまにケガが合った場合には大小関係なく、保護者様へ状況説明とともに謝罪を行っております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10	0	0	0	言葉を発することが増えてきて、安心して通えていると思います。	今後もお子さまや保護者様が安心して通所できるように、事業所の雰囲気作りを意識してまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10	0	0	0	子どもに合わせて活動内容を決めてくださっているので、毎回楽しく通えています。	お子さまが飽きず楽しく、かつ居心地の良い場所となるようお子さまに合わせたサービスの提供を心掛けてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	0	0	0	・大変満足しています。 ・スタッフの方との会話が、段々スムーズになったように感じます。楽しく過ごせているようです。	現状に満足せず、ご利用いただいている保護者様からよりご満足いただけるように、事業所内で今後も話し合っております。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」はくさん校				公表日	2025年 2月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		パーテーションを使って支援スペースを区切っている。
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。			○	コンプライアンスに則り適正な人員を配置している。	今後人員を増やしていく。 ※2025年4月、増員予定。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。			○	バリアフリーはないが、階段には手摺が付いており、お子さまの落下防止の為に必ず職員が階段昇降の際には付き添っている。	建物の老朽化による影響は多少ある為、今後修繕予定。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		○		掃除を行い清潔を保つよう努めている。随時、感染予防の観点からも消毒や換気も行っている。	支援スペースにある畳の交換を検討。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○		お子さまの特性に合わせ、通常の支援スペース以外にもパーテーションを使って空間を区切って個別のスペースを作るなど対応をしている。	クールダウンする為の個別になれる空間、スペースを今後作っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		業務について職員全員で話し合っています。目標について全員で共有し、振り返る中で次はどのように改善していくかも全員共有している。	今後も継続して業務改善に繋げていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に事業所ミーティングの機会を作り、保護者様のご要望などについて全員で共有し、業務改善に日々努めている。	今後も継続して業務改善に繋げていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的に事業所ミーティングを行い、お子さまや保護者様の支援に限らず、各自が働きやすい環境となるように意見をもらい、業務改善および業務効率化に努めている。	今後も継続して業務改善に繋げていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○			第三者による外部評価は行ってないが、今後検討し、業務改善に繋げていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		事例研修や職員の社歴に応じた社内研修、児童指導員や管理者などの立場に合わせた階層別研修など、職員の資質向上を図るため定期的な研修の機会が設けられている。	今後も継続して職員の資質向上に繋げていく。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			支援プログラム公表に向け、現在体制を整えるとともに準備を進めている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		保護者様のご要望や困り感などをアセスメントし、お聞きした内容を基に客観的な視点から個別支援計画書を作成している。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画書を作成する際にはアセスメントを基に作成した後、個別支援計画作成会議を行い、職員全員の意見および共通認識のうえで作成している。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画作成会議でお子さまの支援の方向性などを確認するとともに、日々の業務の中でお子さまの支援内容を職員同士で都度確認している。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		お子さまの年齢に対する適応行動について、標準化されたツールを用いて保護者様と面談を行い、日々のお子さまの様子を意識して見守っている。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		ガイドラインを基に作成し、お子さまの支援内容についてはそれぞれのお子さまに合わせたもので作成し、家族支援および移行支援についてはお子さま全員の個別支援計画書に盛り込み、お子さまだけではなく、保護者様にも同様にサポート体制を取っている。	個別支援計画書はお子さまそれぞれに合わせて、今後も具体的な内容で作成していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の業務の中でお子さまの活動内容について振り返りながら、現在取り組んでいること、今後の方向性など全員で考えている。	今後も全員で協力して立案していく。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	○	お子さまや保護者様がマンネリ化しないように、お子さまの支援に関する情報は引継ぎ情報共有を行っている。	今後もお子さまが前向きに活動に取り組めるように工夫していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	○	通常は個別療育を提供しているが、個別支援の中で培われた知識や経験を小集団イベントなどで実際に行っている。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	○	朝礼の時間にその日の利用予定や対応方法などについて全員で共有し、ケガおよび事故に繋がらないように協力体制を組んでいる。	今後も全員で協力して取り組んでいく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	○	終礼の時間にその日の振り返りや支援内容などについて全員で共有し、対応方法などにおいて改善点がないかどうか確認している。	今後も継続して業務改善に繋げていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	○	お子さまごとに支援記録を作成および保管し、お子さまの成長に繋がるように職員全員で共有できるようにしている。	今後も継続して業務改善に繋げていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	○	保護者様と面談予定を調整し、個別支援計画書の見直しに関する確認を随時行っている。また個別支援計画書の見直しに限らず、保護者様の困り感などについての相談対応も行っている。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	○	基本的には児童発達支援管理責任者もしくは管理者が参画するようにしているが、機会があれば児童指導員も同席する形で参画している。	今後もお子さまの状況をよく理解している者が参画していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	○	お子さま全員ではないが、ケースによっては地域の保健師、児童相談所などの関係機関と連携を取り、お子さまや保護者様の情報を共有できる体制を整えている。	今後も関係機関との連携を図り、十分な支援体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	○	サービス担当者会議などで関係機関が集まる場合には、支援内容などの情報共有とともにお子さまの利用時の様子や保護者様からの爽段内容などについても共有し、相互理解を図れるよう連携を取っている。	今後も保護者様だけではなく、就学先となる学校とも連携を図り、お子さまを取り巻く環境を整えていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	○	お子さまが就学を迎えるタイミングでは、支援情報提供書を作成し、お子さまの初回利用時、現在の様子についてまとめ、今後必要と思われる対応方法などについて記載したものを保護者様へお渡ししている。	今後も保護者様だけではなく、就学先となる学校とも連携を図り、お子さまを取り巻く環境を整えていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○	○	児童発達支援センターとお子さまの情報共有を行うとともに、お子さまの支援において気を付けなければならないこと、必要なことなどを助言いただく機会がある。	より専門的な機関からのアドバイスをいただき、今後もお子さま、保護者様に適切な支援を提供していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○	○		現状、地域のお子さまと関わる機会が少ないが、今後将来的に地域移行するという点から、地域中での活動機会を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	○	フィードバックの時間で支援中のお子さまの様子をお伝えするとともに、園や自宅での様子もお聞きしながら保護者様の困り感などの相談に迅速に対応できるよう意識している。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	○	ペアレントトレーニングは現状行っていないが、お子さまの支援見学を提案および案内し、支援中のお子さまの様子を見ていただくとともに共通理解が持てる機会を作っている。	ペアレントトレーニングを今後検討していく。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	○	事業所見学、無料体験を通してご利用意向をいただき、契約に繋がった際には、利用者負担等について保護者様が分かりやすいように丁寧な説明を今後も行っていく。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	○	個別支援計画書更新の際には、モニタリング面談の時間を設け、保護者様と個別支援計画書の内容の確認、普段の生活の中で感じる困り感などについてゆっくりお話をする時間を設けている。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○	個別支援計画書を作成した際には、保護者様の意向を基に作成したこと、支援内容や方向性などについて丁寧に説明し同意をいただいている。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	お子さまの支援の様子や取り組んだ課題などについて保護者様とフィードバックする時間を必ず設け、フィードバックで十分にお話をする時間がない時には別日に面談を行っている。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	現状、保護者様同士やきょうだい同士で交流する機会は設けられていない為、今後検討し行っていく。	以前行っていたママカフェのように話しやすい場の機会を提供し、保護者様の困り感等について確認対応していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	保護者様から相談依頼があった時には面談調整を図り、迅速に対応できるよう意識して取り組んでいる。相談内容については事業所内で確実に共有している。	今後も継続して保護者様に満足いただけるように丁寧に対応していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	小集団イベントなどの活動の様子を撮影し、事業所内で掲示している。個人情報取り扱いの観点から顔が映らないように配慮している。	今後も事業所内での活動について保護者様へ可能な限り継続して周知していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	鍵付きロッカーの中にお子さまの個人情報に係るものは全て保管している。取り扱いについては事業所内のみとしている。	今後も細心の注意を払い、個人情報の取扱いには気をつけていく。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	聴覚的情報から読み取りや感じる事が難しいお子さまには視覚的情報を提示するなど、お子さまの特性に合わせた支援を行っている。また、保護者様に対しても口頭での説明だけではなく、紙面などで丁寧な説明を心掛けている。	お子さま。保護者様が分かりやすいように配慮ある対応を継続して行っていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	初対面の人との関わりや環境の変化が苦手なお子さまが多く、イベントなどに地域の方を招待すると仮になった場合に難しいことが考えられる為、要検討が必要と考える。	必要がある場合には検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	毎月避難訓練を行い、想定される災害に対しての行動などについて職員全員で共通認識を持っている。	今後もマニュアルを基に発生を想定した訓練を行い、実際の場面にも対応できるよう常に意識をしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	毎月避難訓練を行い、想定される災害に対しての行動などについて職員全員で共通認識を持っている。	災害発生を想定した訓練を行い、実際の場面にも対応できるよう常に意識をしていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		お子さまの身体的情報については個人ファイルで確認するとともに、服薬や発作などの情報についても都度保護者様へ最新情報を聞き取り確認するよう意識していく。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		お子さまの身体的情報については個人ファイルで確認するとともに、服薬や発作などの情報についても都度保護者様へ最新情報を聞き取り確認するよう意識していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	お子さまの安全を第一に行うとともに、事業所内で考える事態に対する措置など共通認識を持ち、常日頃から危機意識を持ってお子さまの支援を行えるように研修の機会を設けている。	あらゆる場面を想定し、お子さまの安全第一を考えるとともに、普段から事業所の環境にも意識していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	お子さまの安全第一の為に、保護者様へ緊急連絡をお聞きし、個人ファイルとは別に保管。万が一の場合には早急に連絡させていただく為に体制を整えていることを説明している。	避難バッグとともに保護者様の緊急連絡先情報もすぐに持ち出せるように準備を行っている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	大小関わらず、ヒヤリとした場面があれば記録を作るとともに事業所内で共有し、再発防止の為に必要なことを全員で話し合い検討する機会を設けている。	日頃から危機意識を持ち、お子さまや保護者様が安心してご利用いただけるように、職員全員で意識していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	虐待防止研修を定期的に行い、一人ひとりの認識のズレをなくし、全員が正しい知識の上、適切な対応を取ることができるようにしている。	お子さまをお預かりしている責任を今一度考え、意識を持って対応していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体的拘束の必要性などについては会社全体でも研修を行い、職員全員が正しい認識を持つようになっている。現状では身体拘束が必要なお子さまはいないが、今後必要なお子さまがいる場合にはお子さまや保護者様へ丁寧に説明し、了承をいただいた上で適切な対応を検討していく。	